
少年少女タチのココロ

紅葉寺 惺麗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少年少女タチの「口

【Zコード】

Z2929D

【作者名】

紅葉寺 惺麗

【あらすじ】

関西に住む中学生“ヨモギ”はバンドを組んでいる。メンバーは男子3人・女子1人。その女子とは、幼馴染の“トロ”の事だ。ヨモギとトロ、2人のキモチを描いた青春記。

プロローグ

また、信号に待たされていた。

これで、登校中にある信号機は 全て俺を待たせた事になる。
もちろん、バスに乗っていた時もそうだった。

俺の家は、田舎にあって、学校が少ない。

だから、バスで学校に通っているのだ。

・・・じゃあ、信号を待っている間、自己紹介をしよう。

ボクの名前はヨモギ。へんだるつ。

ああツ 急がなきや。アレが『青』になつたから。

プロローグ（後書き）

読んで下さった彼方に感謝の気持ちを送ります。

第ヒートテキ。 * キワキワ (前書き)

楽器の専門用語がでてきます。意味が分からなかつたら、御免なさい。それでは、じつそ。お読みください。

第ヒートアキめ。*キラキラ

ギブアップ。

見事な遅刻っぷり。

先生に睨まれた。

『さいあぐ。』

口の中です打ちした。

今日は雨が降っていた。

だから、何時もより10分も早く家を出たんだぞ。

・・・で、バスを降りたらカサのやつ。

ボキッといいやがつた。

風が強かつたからだ。

（おかげで学ランが気持ち悪くて。

しかも髪の毛は俺の頭にピットリとくっ付いていた。畜生～～～）

放課後になると、遅刻者は反省文を書いて、クラスメイトの前で発表する事になっていた。

そんな面倒な時間 皆に笑われてしまった。

俺はただ、『信号機のせい』で遅れました』って

言っただけだ。 ブウ。

『ようツ 信号に待たされたって！？』

ミヅがニヤニヤしながらやつて來た。

コイツ。 “真藤蜜” は、

俺と同じバンドの仲間で ベースをしている。

『ああ。』

ミヅが俺の答えを笑顔で返してきた。

『アンタ等。何？ モモも早よう 楽器出して来いや。』

『何の曲すんの？』俺は“梅野^{ウメノ}蓬^{モモ}”

だから、“モモ”と呼ばれている。

『曲は何でもええわ。アンタに任せる。』さつきから俺と話してゐる

のは

ミツナガ

満永^{ミツナガ}

トロ

（「トイツもある意味ミツや。（笑）」）

は ドラムをしていむ。小さい頃からやつてこむ。プロのドラマの父親を見て育つた子だ。

『何でもええつて、ソレ困るわ。』

『何でやツ』

トロから、ドラムのタムとシンバルの間から* スティックで突かれ
た。

（* ドラムを叩くバチの事）

トロはシンバルの位置の調節中だった。

俺がさつきから自分の楽器を出さないのは、俺の担当する楽器が曲によつて違つからだ。

（ギター。鍵盤 そして、たまにボーカル。）

で、全部だそつうつつても、

今俺らが居るのはトロの家の防音室（7条）で、棚やらドラムやらと、「チャヤ」して狭い。

『ああ もーええわ。>ドライ・バードくにせえ。』ヒミツ。

『そーいえば、ナツがまだやなあ。』頷きながらトロ。

“ナツ”とは、“柳川^{ヤナガワ}捺詩^{ナシシ}”という男だ。

ギター・サックス・トランペット etc. . . 何でもする。ジャズ系には持つて来いな人材だ。

『俺、探して来るわ。』なんて俺。

『いつてらーー！お風呂沸かして待つてるで』

『キモチ悪いシニッ。今度言つたら しばくつ』

『ちえつ一緒にはいる思てたのにい。』

・・・トロの方をチラッと見た。

顔を見合させて少し笑お。思てた。

でも、トロは防音室の分厚いガラス窓の方を向いていた。

夕日に照らされたトロは、キレイな夕日色に輝いて見えた。
そり、とても綺麗な夕日色。

太陽の色。

輝いているトロの顔は、その影になつていて、
よく見えなかつた。

たつた一瞬。

時間がピッタリ止まつた様な気がした。

トロを見ている間の0・5秒が、とても長かつたと思つ。
そのスキに、カツブラーーメン出来ちゃうんじゃないの。

俺はその、0・5秒の3分間な間、
ずっとトロを見ていた。

そんな俺・・・。

ガチャン。

ドアの開く音。

『ゴツッ。

俺の身体からだとドアがぶつかる音だ

この音を2つ合まとめて、ナツが部屋に入つて来る音といつ。

ナツの髪は長めで、サラサラしている。

（トロには負けるけど。）

田は男らしいんだけど、つてか

“モテ男”つてゆーの。 『うううんは？

『ちあーつす』 ホラ。ナツが来た。
ダラダラしながら入つてきた。

『ナツう。なんや 今日は遅かつたなあ。』 つてトロ。

『先生に怒られた。ノート破つとただけなんに。』 と自覚のナツ。

『馬鹿ナツ。』 とトロ。

2人つてこんなにコトバのキヤツチボールするつけ?つて俺。
ぶうつて俺。

コレつてヤキモチかなつて俺に言つ俺。

『さ・て・と。始めるで、ドライバード。』 つてミツ。

ジャーンツツ コレが俺等のバンドだ。

大好きなバンド、『オムレツ&オムライス』

略して（？）“ケチャ（ツブ）”。

・・・日本人5人のふざけたバンドだ。

面白い曲もあれば、ゆつたりした曲もある。
ジャズ系、ロック系。 まだまだ。
とにかく、何でも歌う。 と思えば、

1曲の中に、いろんなタイプのメロディーを入れる事もある。

その“色々”が、

ドライ・バーード。

とにかく、カツ「良い。

『あああッえッ演奏中止やッ』トロが叫んだ。

『うあッ寄つて来んでーーー誰かツヨモツ助けてえッ』

ハテナマーク。

何があつたん、トロ。

説明不足や。

『はッ蜂やッ。タムにッ大つきいの。』

すげえ。じーゅーのつて以心伝心つての?

『タムつて?ハイタム?サイドタム?

それともフロアタム?』つて俺。イジメてやつた。

『ハイとサイドの真ん中やつ』

『ソレつて*バスドラやん。』

(* ドラムの中心にある大きな太鼓
(足で踏んで音を出す) の事。)

と言つてナツがハンカチで蜂を包んだ。
良いことでは無いけど、その時、
ナツの雨で濡れた髪から水滴がポタポタと

ドラマに落ちていた。

雨はさつき止んだばかりだ。

『一ゆーのつて、『水もしたたる良い男』つての?ムキイツ
・・・で、ナツはそのハンカチを丸めて、窓から外へ投げ捨てた。

『ありがとな。ナツウー』つてトロ。

『まつな。俺、蜂^{むし}にはもう慣れつ子やかんな。』つてナツ。
2人から目線を少しづらして左なめ下にざらして脹^{ふく}れる俺。

『なんや、モモは。ヤキモチさんか?』なーんて、ミツ。

『そ、うなん? モモ』つてトロ。

水もしたたる良い男(水男)は、
前髪をぐわッと引き上げた。

話についていません的な目線で、

『モモはかわええなあ。』つてさ。

『はあッ何やッ水男ッ男にかわええ言つには無限年早いわッ』

『水男つて何やあつ!?

2人で殴り合つて遊んだ。

チラリと窓を見た。

夕日がもう影しか見えない。
オレンジ色の影。

そのオレンジより上は、
もう星がバラついていた。

もうそこは、夜の世界。
神秘の世界になっていた。

でも、この部屋には、
わずかに太陽のオレンジが降り注いでいた。

太陽と俺は、少し会話をした。

『今日はヨモギさん。 楽しそうだね。

ボクがたくさん光をあげるよ。 この部屋に。』

『ありがとう。 でも、もう夜だよ。』

『そんなの。 かまうもんですか。』 つてね。

トロが口をはさむ。

『ほら、 そこの2人 練習するで。

太陽があるうちに、 1回でもとうしたいんや。

ホラ、 太陽も言つとるで。

・・・・・・・・・ ホラな。 言つとるやんか。』 つてさ。

(この時トロのヤツ。 こっち向いて二口つだつて。)

『俺は何も聞こえんかつたで!! なつナツ!! つてミツ。』

なんだ。 トロも聞いてたんか。

ほお。 さては 盗み聞きやな!? - なんて。

ナツの振り上げた拳が、 ストンと、 落ちた。
俺の右肩に。 戦力を0にしたらしい。

ふと、 ナツを見た。

ミツも、 トロも見た。

3人とも、 同じ空を眺めていた。
俺も見た。

わざかな夕日色がまた この部屋にあった。
皆で同じ空を見た。

『さ・て・とつ始めるで。』 つとトロ。
さつきも同じ様な台詞セリフ言つてたよな 「コイツ。
ステイツクが、 カン カン カン。 となつた。

ジャーン!! またやり直し。

次はわざかな夕日の中で。

ドラムが笛をささえる。
ベースがリズムをとる。
サックスがメロディーを。
キーボードが伴奏を。

そして。

トロが息を吸う ミツも吸う。
俺も吸う。

そしてはき出す!!

俺がメロディー。

トロとミツがハモリながら俺の後ろで
小さく。歌う。

今。 4人の音と 3人の声が1つになつた。

わざかな夕日の中で

第ヒートアキラ。 * キワキワ (後書き)

最後まで読んで下せり、
有難う御座いました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2929d/>

少年少女タチのココロ

2010年11月10日10時50分発行